



関西学院同窓会 大阪支部

INTERVIEW

http://www.kwangaku-osaka.org

2018.09

探訪記

FILE

No.20

関西学院大学 国連・外交統括センター長

神余 隆博氏

国際的社会的貢献度において、必ず関西学院の評価の向上につながるものと、確信している。

—— 2012年4月関西学院大学から副学長（国際戦略本部長・教授に招かれたわけですが、これからの関西学院はどうかあるべきかなどについてお聞きしたいと思います。

まず感じることは、関学には熱い思いを持った人が他大学よりもたくさんいると思います。

ただ関学は他大学と比べて競争意識が少ないですね。競争する必要はないと考えている人が同窓生にも多いと思います。

国際化は関西学院の伝統の一つですね。外国入官教師ランパス博士によって創立された関学



関西学院大学 国連・外交統括センター長
神余 隆博（しんよ・たかひろ）氏

は、「英語の関学」という伝統があるのですが、だんだん実態がなくなっているように思います。しかし、伝統的な関学の持つ「ポテンシャル」は非常に大きいので、国連ユース・ボランティアにしても、国連職員を出そうという動きも、（創立者ランパスの世界市民を育てるといふ）ベースがあるからできることだと思います。

ところで学院全体の将来像が先般発表されました。来る創立150周年（2039年）に向けて

「KWANSEI GRAND CHALLENGE 2039」

（超長期ビジョン・長期戦略）が策定されました。これは非常に具体性に富み、意欲的にまとめられたものです。これからの関学の国際化を具体的に推進していくプログラムも示されています。学長をリーダーに教職員が叡智を出し合い、一丸となつてまとめた関西学院憲章といつても過言ではない力作です。

関学の将来を語る前に現状の把握をしておきたいと思えます。最近大学の世界ランキングの話題を見聞きすることがよくあります。関学も世界ランキングについてはあまり意識していません。

いまだに気にすることは無いという意見もありますが、外国から学生を集めようとしても、留学生を送り込んでくる（特にASEAN等のアジア諸国）側では、仮に関学がランク外であれば、留学対象の大学として通用しなくなっているのが現状です。ここ2、3年は関学も世界ランキングを意識して、ランクを上げる努

力をしています。世界ランキングでは関学は800〜1000番くらいですが、できれば数百番内に入りたいですね。ちなみに医学部を持っている関西のK大学は600番目です。なぜこんなに違うかといえ、K大学は理系の学部が多く、論文を多く発表しています。それが理由ですね。関西のD大学にしても、R大学にしても文系中心の大学はランキング上位に入ることは難しいですね。それを踏まえて、わが大学は理系にしても、人文社会系にしても、一層研究者を養成して、多くの論文を書けるような指導の徹底をしていかなければなりません。そのノウハウを含めて、我々も相当勉強をしています。例えばこの学芸雑誌に論文を出せばいいのとか、どの分野でどれくらい論文が出されているかを分析評価するツールもあります。そういうことを踏まえた論文投稿戦略も必要であり、そういうことをきっちりやれば関学のランクも必ず上がります。

日本ランキングでは関学は去年40位くらいだったのが今年は31位くらいに上がりました。それでもR大学やD大学に負けています。両大学とも20番目です。しかし私大の中ではトップ10に入っているのです。そう悪くはないのです。とはいえ国際的な指標をベースに世界ランキングを上げる戦略と努力は不可欠です。

世界ランキングも長期的には500から600番目には上げたいですね。

ただ関学の良いところはランキングでは測れないところがあります。それは大学の社会的貢献力 [Social Contribution] です。これは大学ランキング評価指標の一つにしていくべきだと思います。私はロンドンで開かれたランキングの世界大会で次のように発言しました。大学の使命はもちろん研究、教育とかがありますが、プラスアルファで、どれだけ大学が社会に役立つているか、世界の平和に貢献しているか、学生がどれだけ世界に出て国際ボランティアなどで活躍しているかを大学ランキング評価指標に取り入れていくべきであると提案しました。そうなると思学は順位が上がると思えます。

—— 関学卒業生は総じて協働性があり、情熱的にも安定した人材が多いように思えます。これも関

学というスクールカラーなのでしょうか？

関学は多様で上位の人には優秀な人が多い。今年
は防衛省のキャリアに二人女子学生が採用されま
した。関学はこれまで実業界に多くの人材を送っ
てきました。これからは官界、政界にも進出する学生
がもっと多くでるべきだし、そうやって行なうら
うと思います。国際公務員でも同じことが言えます。
国際公務員などは関学が関学で勉強したことで、ス
クールモットー (Mastery for Service) を踏まえ
てやれば自然体でできる分野で、日本で唯一 関学し
かない部分ではありませんか。

関学は高校、大学、大学院の一貫教育で世界市民
明石塾や国連・外交プログラム並びに国連・外交コ
ースというのを行っています。

(明石塾に参加しているような) 優秀な高校生
を全国から集めて、関学に入ったら学部で国連・外
交プログラムという副専攻ですが、これを履修して
もらいます。これは今年(2018年度)からやり
ます。大学院でも(去年から)副専攻の国連・外交
コースを設けて国連職員を養成しています。このよ
うにして関学でしか受けられない実践教育をする
もちろん授業はすべて英語で行っています。そして
国連・外交コースに入ってくる人は将来専門家にな
り、国連職員になるための様々な素養やコンピテン
シーを身に着けるようなコース作りを行っています
ます。このようなシステムは他大学にはなく、関学
しか持っていないです。これは関学のノウハウであり、
これを構築するのに多大な労力と知力を投入して
きました。他大学からも教えてほしいとの要請があ
りますが、このノウハウは安易には提供できません
ね。本来は日本の国立大学が国の予算ですべきこ
とを、関学は使命感を持ってやっていますのです。こ
れは大学の一つの特許です。また開発途上ですが確
立できれば、後々国のために共有してもらえればい
いと思います。国連・外交コースは国会議員や文部
科学省から、また他大学からも注目されており、マ
スコミにも取り上げられています。関学がこういう
システムでもって社会貢献をしていることが大学の
評価にも繋がるべきだと考えています。

また関学は2004年から国連ユースボランテ

アに取り組んできました。その実績を踏まえて、
わずかではありますが外務省の予算が配分されい
ます。税金を使う以上は、関学だけというわけには
いかないで、現在国公私立の9校でやっています。
そして関学は基幹校として中心的な役割を担って
います。このいわゆる関学モデル(関学・国連ボラ
ンティア計画・日本政府の三者による協力モデル)
は2014年に作り上げられましたが、国連ボラン
ティア計画から他の国でも適用できるのではない
か期待されています。今はこのモデルを香港が実施
しており、韓国も導入し始めました。こういうこと
を関学がやっているということこそを同窓の皆さんに
も是非知っていただきたいのです。

そしてこの関学のユニークな活動はソーシャル・
コントリビューション(社会的貢献度)において
必ず関西学院の評価の向上につながるものと確信
しています。



神余 隆博氏と大阪支部長 富田 順治氏対談

「39」(超長期ビジョン・長期戦略)が策定され
他大学との競争意識などもこのような方向に舵が
切られていくのではないかと。

このビジョンは未来予測をベースにした関西学
院のサバイバルプランですから、今一番やらなくて

はならないことは何か。初めに少し触れましたが、
もつと競争的なマインドを持たなくてはいけない
と思うのです。競争という文化が関学には今までは
少なく、それでやってこられたのです。そこが関学
のいいところでもあるし、限界でもあるのでしよう。
そのために国際化の面で少し出遅れた感がありま
すが、それではいけないということで、2012年
に文科省のグローバル人材育成推進事業に採択さ
れ、2014年にはSGH(スーパーグローバル大学
創成支援)に採択されてきています。このように関
学も着実に国際化をリードする方向に向かっている
のは間違いありません。「KWANSEI GRAND
CHALLENGE 2039」に沿って、これからの世の
中の変化において大学教育には何が一番必要な
か。自ずと具体的に見えてきます。やはり大学院の
研究・教育をどうするかです。この点が関学は少し
遅れていると言わざるを得ません。関学は大学院に
進む学生が少ない。ということは関学の学生を教え
る先生が関学出身でない人が多くなります。そう
なると研究者の自己再生産ができません。これでは
いけない。これから強化すべきは大学院です。
そこでなければ理系・文系を問わずそれぞれの学
問の分野の研究者の再生産ができません。

——最近では社会も専門家を求めています。企
業に文系特に法律系の専門職へのニーズが高まっ
ていますね。

企業に院卒の社員も増やすべきだし、学問の分
野でも研究者を増やしていかなければ、大学の拡
大再生産に繋がっていきません。先生が他大学か
ら来てもらうのでは、関学の関学らしさが無くな
ってしまいます。

高大接続という新しい概念が一般化しつつあ
りますが、関学はもともと中高一貫教育があり
この比率を高めて、「学びの先取り」言い換えれば
授業の前倒しを進めて、大学の早期段階で留学する
など将来の視野をできるだけ広くできるような教
育制度です。また関学はSGH(スーパーグローバル
ハイスクール)に採択された高校との連携も行っ
ています。関学だからこぞ持ちうるアドバンテージを
生かし、学院創立時からの伝統である「国際性」を
高校との関係においても高度なレベルまで持つて

いけるチャンスに遭遇している。
そもそもスーパーグローバル・ハイスクールにな
るにはどこかの大学と組んでやらなければなりま
せんが、関学高等部、千里国際高校、創立者が同じ
啓明学院高校の同じ系列3校がSGHには選ばれま
した。

多分全国の大学でも同系列のSGH3校と同時
に連携しているところは少ないと思います。
連携に関してはプログラム実施計画をはじめ、私
の同僚も高等部に直接出向している支援助をして
います。問題はモチベーションを高く持っている
学生が大学に入ってきて、失望しないように、
モチベーションの高い学生をどうやって指導して
いくか、そのためのメニューを準備しています。そ
の1つが国連・外交プログラムです。このような高
大接続プログラムをどれだけ作っていくか。要は全
員がとは言わないまでも、優秀な生徒をどれだけ大
学でレベルアップして行くかということだと思います。
本当にできる高校生は例えは全国から集ま
ってくる明石塾では、すごいですよ。

明石塾では国連の職員が来てくれて授業したり、
海外の日本人国連職員とネットによる授業で対話
をしたり、ディベートをやったり、「21世紀青年憲
章」を作ったりしています。昨年の明石塾では大変
立派なものが出来上がって、関学のホームページに
も載っています。そういう高校生が本大学に入っ
てきたときに各学部に入らないうちから並行して活動(勉強
して)いける副専攻のプログラムとして国連・外交プ
ログラムがあるのです。

これから海外ボランティア、国連職員など、国際
社会・海外に出ていく学生がどんどん増えていくで
しょう。今大学で取り入れているダブルチャレンジ
制度は2019年には全学生に課せられる予定です。
従来の各学部単位の科目だけ消化していけば卒
業ができるという大学から、ダブルチャレンジ制度
を活用してこれほしい、あれもできるといふ学生
がたくさん出てくるでしょう。

——終わりにあたって、今、私立関西学院を
どのように思っておられるか一言のお願いを伺っ

て締めさせていただきたいと思えます。

私は関学に来てよかったですと思っています。副学長が果たして勤まるのかしらとも思いましたが、頼まれた以上は一生懸命やろうと、私の持っている経験とか人脈をフルに活用しました。そうしたことをさせてくれる雰囲気に関学にはありました。執行部とも侃々諤々やるわけですが、そうした議論をするカルチャーが関学にはあります。

もう一つの点は、太学は教員だけではない。職員がいてこそ、初めて仕事ができる。私がびっくりしたのは関学の職員は優秀だということです。学生に対する思いやりにも感心しました。そしていい教員いい職員がいます。これがそろつていないといいたく学にはなりません。

—— 関学出身の事務職員が多いので、同じ教育を受けてきて学生とも目線が合うのでしょうか。

そこが国公立との違いですね。関学に限らず私大は職員に卒業生が多いので、皆のチームワークがいいですね。団結力があります。特に今の関学は学長以下教育改革に対して積極的に取り組んでいる姿勢がみられます。文科省をはじめとする中央へのアプローチもいいですね。そういうところに出て行ってバリバリやる。そういうことをやってくれる人がいるということが、非常に大事ですね。村田学長は中教審の委員にも選出され、これまで関学が経験しなかったポジションもしっかりと占めていることは、関学の評価が見直されてきているという証です。私も関学で6年間やってきて、微力ながらやるべきことをやらせていただきました。

関学は持っているいいものを失わないようにしてほしい。こんな素晴らしいものを持っている大学はそれほど多くはありません。

—— ありがとうございます。

※明石塾 関西学院大学が2016年8月から国際的なリーダー育成を目的に明石康・元国連事務次長を塾長に迎え「関西学院世界市民明石塾」を開催。毎年夏に文科省が認定したスーパーグローバルハイスクール（SGH）を含む全国の高校生20数名を対象に4日間の日程で行われている。

神余隆博（しんよ・たかひろ）

前・関西学院大学副学長

現・関西学院大学 国連・外交統括センター長

香川県琴平町出身

大阪大学卒業

1972年外務省に入省

2002年 在デュッセルドルフ日本国総領事

2005年外務省国際社会協力部長

2006年国連連合日本政府特命全権大使

2008年在ドイツ特命全権大使などを歴任

1996年法学博士号取得

大阪大学 教授

東京大学大学院客員教授

デュッセルドルフ大学客員教授等も務めた。

ドイツ功勞十字勲章

フランス・シユバリエ勲章を受章



関西学院大学 国連・外交統括センター長
神余 隆博（しんよ・たかひろ）



大阪支部長
富田 順治（とみた じゅんじ）